



浜松 弁天島の陽ざし

## 💡「精神医学」と「量子力学」との因果な関係💡

共和病院 院長  
安藤 勝久

『精神医学』とは紛れもなく自然科学の一分野であるはずですが、30年近く前、私が精神科を志した頃、体系化した精神病理の理論はすでに構築されていました。しかし、理論を証明するための自然科学の手立てがなく、蓄積された記述データは哲学的な手法で解釈されていました。そのような限定された条件のもとで精神医学は自然科学になりきれない一領域でした。

10年ほど前から脳の機能解明のための手法が徐々に実用化されてきています。「脳科学」という言葉が生まれ、時代の中で注目を集めて急速に発展してきています。脳活動を画像化するf-MRI、脳代謝を可視化したPET、神経活動を物質で説明する神経伝達物質など、神秘のベールに包まれていた脳が新参の技術の前にあらわにされてきています。早晩、“精神”という無形の存在は消滅し、すべてが“脳”という有形の物質の中で起こる物理現象で説明され、行き着くところ、すべての精神活動は遺伝子という物質の動向の結果に過ぎないという現実に至ろうとしています。科学の進歩の中で、いつかこの日が来るであろうことは医学者としては嬉しい反面、つかみどころのないものとしての“精神”を長年追い求めてきた者としては、一抹の寂しさを感じさせるものがあります。

一方、『量子力学』も近年注目の領域で、宇宙創世の謎

に迫る壮大な理論を打ち出している最も自然科学らしい分野です。物質の最小単位といわれるクォークを理論から導き出し、その実在を実験で証明し、最後まで残されたヒッグス粒子を発見することで理論が完成し、2013年ノーベル物理学賞を受賞したことは記憶に新しいところです。

数式での証明は明快で異論をはさむ余地はありませんが、その先の解釈では、新たな解釈が新たな不整合を生み、それを整合させるためにさらに進化した解釈を生み出さなければならなくなるという事態を生じています。この宇宙のすぐ隣に見えない並行宇宙が存在するという妄想めいた考えも、量子力学によれば確信に近い事実となっています。世界のあり方を説明する多彩な解釈の中に「多精神解釈(多心解釈)」があります。それは《自身の相対状態形式は、客観的には連続的で因果的だが、主観的には非連続的で確率的である、つまり、脳の状態(物質的世界)と心の状態(心的世界)は異なる》という、いかにも哲学的なものです。最新の物理理論を突き詰めてゆくと、時空の概念だけでは収まりきらず、精神(心)の概念を持ち出さざるを得なくなってしまう。最先端の自然科学の向かう先に“脳”とは異なる存在としての“精神”が存在するという考えは、精神科医の私にとって、何ともほっとさせられる発見でありました。



日本医療機能評価機構  
認定シンボルマーク

# TOPICS・EVENT



## 第15回 共和病院 地域医療フォーラム



香月 富士日 氏

平成25年11月30日(土)大府市役所において、第15回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。

第1部では、「家族の力を引き出す支援」というテーマで名古屋市立大学看護学部精神保健看護学分野准教授、香月 富士日 氏が講演されました。

まず、家族の抱える問題や、危機的状況について話され、その上で、①家族心理教育、②セルフヘルプグループ③家族会④FamilytoFamilyEducation Programという家族への援助戦略が紹介されました。家族心理教育では「人に相談しにくい→人との交流がなくなる→閉じこもる→正しい知識が入らなくなる→孤立する」という悪循環をなくすために家族の傷ついた心をケアしながら情報を伝える必要があり、困難に対する対処法を一緒に考えていくことの重要性、心理教育によって、どうしてよいか分からないという状態から、対処できそうな気持ちになることの大切さについて話されました。また、心理教育でのグループセッションからセルフヘルプへ移行、専門職主体から家族が主体のセルフヘルプグループへ転換し、その結果、家族会へ発展することがあるという内容でした。他者から援助を受

けるばかりではなく、自分たちが援助する側になることで、エンパワーメント\*にできるという講演でした。

今回の講演を聴き、患者様ご本人の力のもとよりその方々を支えるご家族の力の重みを改めて感じました。患者様だけでなく、ご家族の気持ちに寄り添ったより良い支援をこれからも心掛け、少しでも患者様やご家族のエンパワーメントを引き出すお役に立つことができればと感じました。

医療福祉課 森田 智也

\*エンパワーメント:個人や集団が自分の人生の主人公になれるように力をつけて、自分自身の生活や環境をよりコントロールできるようにしていくこと

## シンポジウムに参加して

第2部は、「『家族の力』を支えるために」と題したシンポジウムで、4名のシンポジストがそれぞれの立場で報告を行いました。

シンポジストの高柳さん(愛知県精神障害者家族会連合会副会長)からは、ご家族としてのこれまでの体験と、家族が楽をするためではなく、本人の回復に役立つことが家族への支援になる、との意見が印象的でした。井上さん(知多保健所精神保健福祉相談員)からは、

保健所での個別相談や家族教室などを中心に相談員としての役割について話があり、会場からの意見を含めて未受診者、未治療者を医療へつなげる難しさを改めて感じました。当院病棟看護師の阪上からは、退院後の生活に不安を抱えるご家族への支援について報告がありました。ご家族が相談できる場を確保し、受容的に思いを受けとめながら、ご本人を受け入れていくプロセスを見守ることの大切さが伝わってきました。私は、12月から開始される家族心理教育プログラム「ファミリーサポートミーティング」の立ち上げまでの取り組みについて報告させていただきました。4月に入職し、病院の状況を把握できているとは言えない状況の私が、看護部の1人として外部の方へお話しするのは恐縮しましたが、この約半年間、全職員で取り組んできたことを報告させていただけるいい機会でもありました。臨床でご家族と話す際には、ご本人のことを主体として話すため、なかなかご家族の立場としての語りを聴く機会は多くはありません。私自身、院内での支援体制の整備に目が向いていましたが、保健所をはじめ外部の資源を知り、ご家族の実情に合わせた支援を提供することも必要だと感じました。今回は、ご家族を含めたそれぞれの立場から大切にしていることや実情を共有する良い機会になりました。

看護師 石川 恵己



助言者

香月 富士日 氏

座長

後藤 陽夫 氏 (共和病院 顧問/医師)



高柳 進一 氏  
(NPO 法人愛知県精神障害者  
家族会連合会 副会長)



井上 美妙 氏  
(愛知県知多保健所 健康支援課  
精神保健福祉相談員)



阪上 昌子 氏  
(共和病院 看護部 看護師)



石川 恵己 氏  
(共和病院 看護部 看護師)

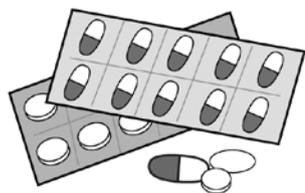
## 医薬品の適正管理 — 薬事審議委員会 —

薬事審議委員会は、薬剤管理業務の円滑な運営を図り、医薬品の採用・削除に関する事項、医薬品における有効性・安全性・経済性に関する事項について検討し、良質な医療を行うために適切な医薬品を提供することを目的として設置されています。

構成は診療部・看護部・医事課・薬剤課から各1名となっていますが、処方する医師の意見を少しでも多く取り入れるため、少しでも多くの医師が参加できるよう、毎月第2月曜日の診療部会に合わせて開催しています。

主な内容としては①期限間近薬剤の確認②前月の臨時採用薬の確認③新規採用・中止薬の検討④その他薬剤管理業務に関わる検討・報告事項などがあります。①期限間近薬剤の確認では前月末確認時の1年以内で期限の切れる薬剤について確認を行います。②委員会以外で臨時採用された薬については直近の委員会にてその後の採用の可否について審議を行い、必要に応じて、採用区分の変更等を行います。③「薬品採用申請用紙」の提出があった薬剤について、申請理由の確認および、その医薬品の有効性・安全性・経済性等について検討し、採用の可否、採用区分について決定します。また、使用頻度の少ない薬剤や同効薬の整理など必要に応じて採用の中止についても検討を行ないます。このように必要な医薬品の採用に加え不要医薬品の中止により、院内採用薬の適正化に努めています。

委員長 蟹江 裕美子



## すみれの丘

はじめまして、9月からすみれの丘に入職いたしました、施設長の早川です。

すみれの丘(住宅型有料老人ホーム)は、個々の生活・療養の場として提供しています。



私はすみれの丘に入職し、一人ひとりを大切に、個々に合わせ、最大限満足していただける環境を提供したいと強く感じました。個室の中での空間は、個々で決められます。しかし、外部からの環境は勝手には変えられません。私たち職員に求められるのは、目で見て耳で傾聴し心で感じることです。そして、いち早く察知することです。私が入居するとしたら、私の家族が入居するとしたら、何を求められるだろうと常に考えています。

最近、ご家族から「安心しています」「すみれの丘に来て、少しずつ慣れてきました」「ここを選んでよかった」と、うれしい声がいただけるようになりました。

入居者様の声、ご家族の声を大切にして今後もよりよい環境づくりに励みたいと思っています。

すみれの丘をふくめ、まごころ館の事業所(菜の花・ソレイユ・コスモス・ゆずの里)との連携があつてこそ、また、職員の満足度が高められてこそ、入居者様の満足そして幸せにつながると考えています。

これからも、すみれの丘をよろしく願いたします。

施設長 早川 初子

## B館 塗替え中!



当院のB館は、昭和62年5月に竣工して以来、病棟の機能変更に伴う改装を行ない、このたび外壁の補修、塗装を行うことになりました。作業中はお迷惑をおかけしますが、3月には新しい姿となりますので、ご期待ください。

## 編集後記

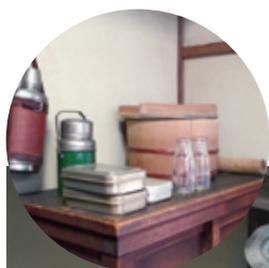


新年、明けましておめでとうございます。みなさん、2014年をどのような心持ちで迎えられるでしょうか。

今年の風水ラッキーカラーは「キャメル」です。色の説明では「自我を抑え、信頼や安心される」とあります。

甘い物に目がない私は「キャラメル」と読みたくなります。しかし、今年は糖類を控え、自分の体を気遣ってあげようと思います。一杯一杯の時は少し立ち止まって、自分にも人にも余裕を与えられる。そんな日々を過ごしたいものです。

広報誌委員会 安藤 喬



## 昭和の部屋 できました!



※この部屋の備品は、地域のみなさまからご寄附していただいたものを使用しています。ご協力ありがとうございました。

認知症治療病棟(C-1病棟)の一角に回想法の部屋「加藤邸」が完成しました。当法人の理事長 加藤 仁が幼少期をすごした昭和初期の民家をイメージして造りました。より本物らしくする為に様々な工夫を凝らしており、蓄音機やマシン、配線や牛乳瓶受けなども実際に使用していたものを設置しています。

ところで、皆さんは回想法をご存じでしょうか?

回想法は簡単に説明すると、「昔を思い出して、皆で語り合うことで楽しい気分、幸せな気分になる」です。

思い出話をする、脳は活性化されます。また、故郷に帰った感覚が味わえることで安心できる空間となり、居心地のいい場所が提供できます。昭和の空間の中で、懐かしい道具などを使いながら認知症の人と楽しいコミュニケーションが今まで以上にできることをスタッフ一同楽しみにしています。

C-1 病棟 看護師 安藤 三津子



### 介護職員初任者研修のご案内

#### 土日を利用して資格を取得しませんか?

ホームヘルパー2級に変わる資格として介護職員初任者研修が平成25年4月からスタートしました。当法人は、土日を利用して働きながら資格取得を目指すみなさんを応援します。

- 日 程:3月1・2・8・15・16・29・30日  
4月5・12・13・19・26・27日  
5月10・11・17・24・25日  
6月7・14・15・21・28日(全23日間)
- 時 間:おおむね9時から16時

- 受講料:61,000円+テキスト代5,900円
- 場 所:共和病院 会議室
- 定 員:20名
- お申込み・問い合わせ  
電話:0562-46-2222(代) 担当:中井・松下

### お知らせ

● 3月1日(土)

第5回 共和病院 研究発表会を行います。  
場所/共和病院C館4階 多目的ホール



共和会理念

### 『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

### 基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会

## 共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>